

日高市内における大気中の放射線量は、毎時0.05～0.18マイクロシーベルトで推移しています。日常生活を送る上で支障の無いレベルですが、雨樋の下などでは、周辺より放射線量が高くなることも予想され、「ホットスポット」などと呼ばれています。

現在、公園等公共施設におきましては、「ホットスポット」は確認されていませんが、個人住宅等の敷地内で高い放射線量が測定された場合の対処法について、以下のとおりまとめたので参考としてください。

## 1 「ホットスポット」になりやすい場所

- (1) 建物の雨樋、側溝、集水マス及び雨だれする場所等
  - (2) 樹木の葉・幹・根、根元付近の土、花壇・芝・草地・コケ及び落ち葉だまり等
  - (3) 水たまりがしやすい窪地、縁石や塀際の土だまり、コンクリートと表土の境及びコンクリートやレンガ（地表面）の割れ目・継ぎ目（目地部）等
- ※ホットスポットを防ぐには、日頃からの清掃もたいへん重要です。

## 2 局所的に放射線量の高い箇所の目安

当市では、地表面50センチメートルの高さで毎時0.23マイクロシーベルト以上としています。

## 3 放射線量の測定

### (1) 測定機器

放射線量を測定する場合は、市が貸し出す測定器または同等の測定器（シンチレーション式サーベイメーター）を使用します。

※いわゆるガイガーカウンターは、放射線量を正確に被ばく量（シーベルト）に換算することができないため、測定には不向きです。

### (2) 測定時の注意点

測定器の示す数値は変動しますので、平均的な数値を読み取ります。また、地表面等で高い放射線が測定されたときは、周辺への影響を把握するため、そこから50センチメートルから1メートル程度離れて測定してみましょう。放射線量が一部で高くても、少し離れたところで周辺と変わらなければ心配ありません。

## 4 測定の結果、放射線量を低減させる必要があるとき

### (1) 準備

マスク、ゴム手袋などを着用します。

### (2) 低減作業

#### ①落ち葉等のたい積物が原因の場合

落ち葉や土ぼこり等を除去します。

#### ②コンクリート等の汚れが原因の場合

汚れが付着している箇所について、水をかけながらブラシやタワシで汚れを落とします。

#### ③地表面が原因の場合

表面の土を5センチ程度削って除去します。削り取った部分は他の場所の土で覆うとともに、除去した土は不透水性の袋に入れます。

### (3) 除去した土の保管

除去した土が入った袋より大きな穴を掘り、その袋を入れ、10～30センチメートルの深さの土で覆います。土による放射線の遮へい効果は、10センチメートルで74%、20センチメートルで90%、30センチメートルでは98%といわれています。それができない場合は、容器に入れて、敷地内のあまり人が立ち入らない場所に保管しましょう。

### (4) 作業完了後

うがい・手洗いをし、靴についた泥は、できるだけ落としましょう。